

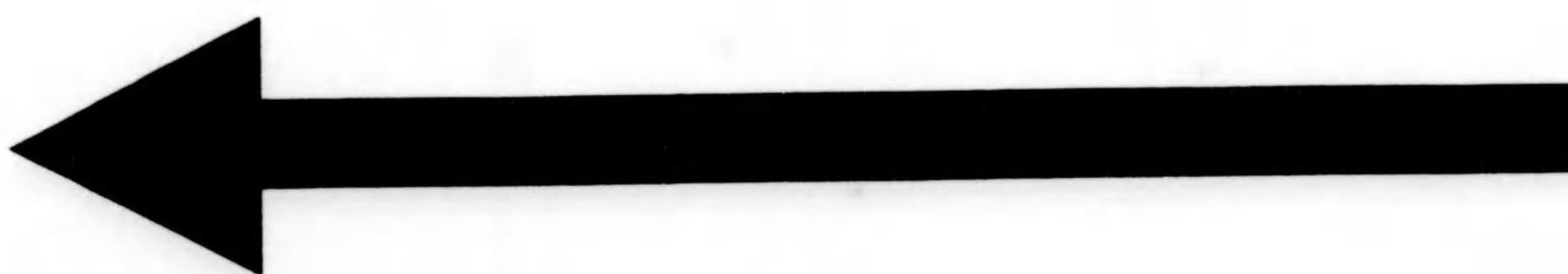
電車百馬鹿

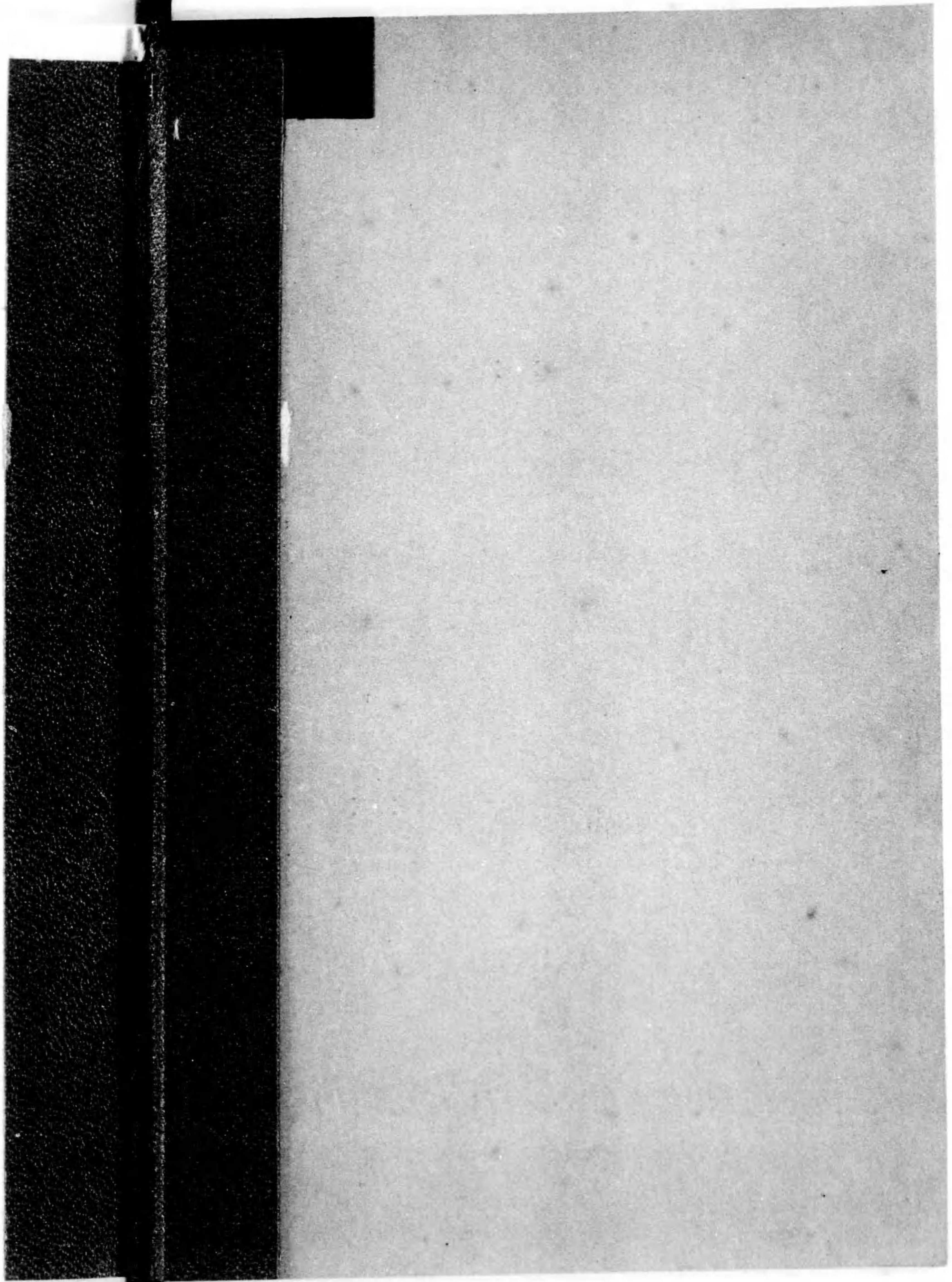
芝雷山人



特
4

始



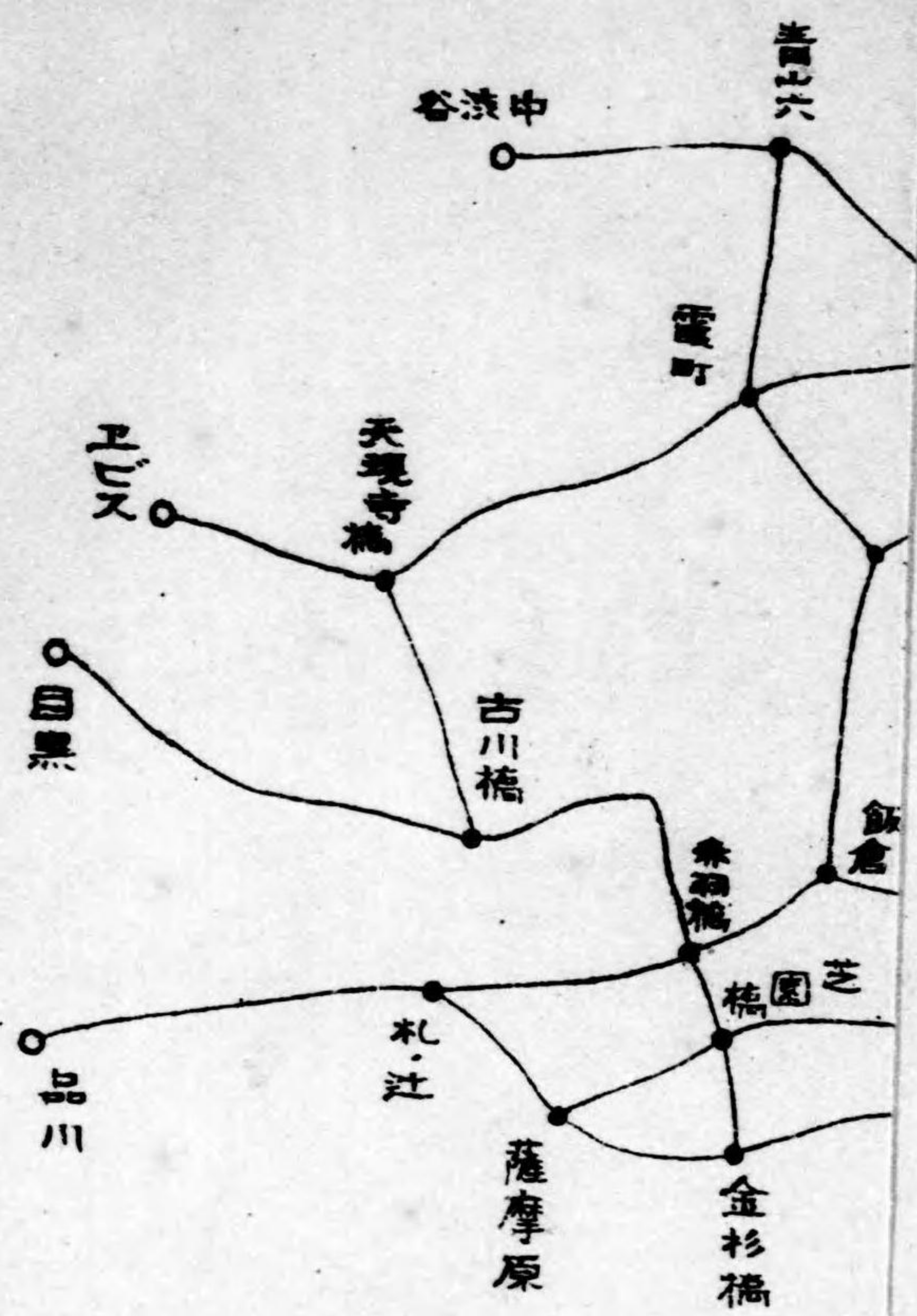


芝雷山人著

電車百馬鹿

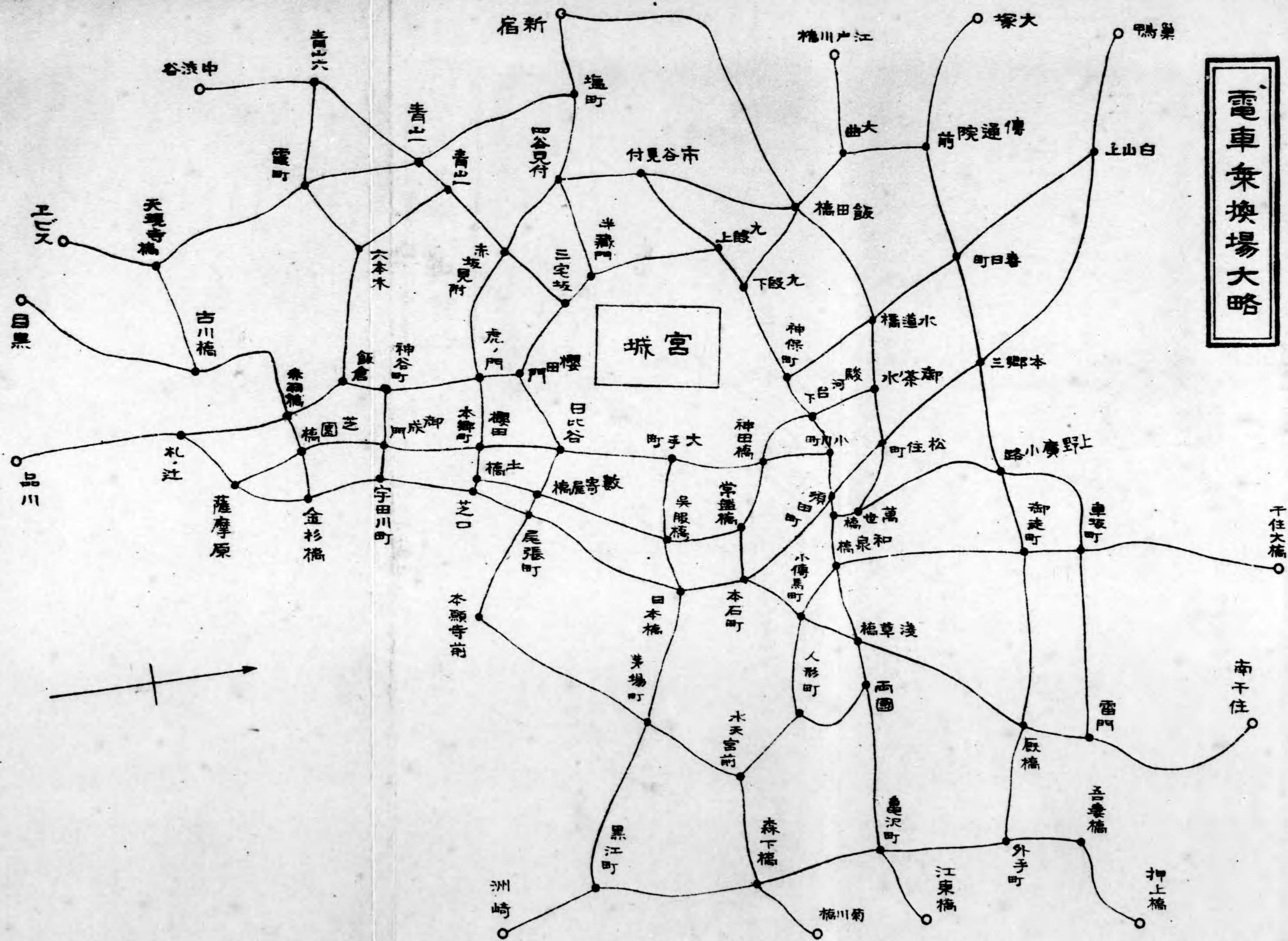


F100
442



特100
442

電車乗換場大略





電車はらす只お互に

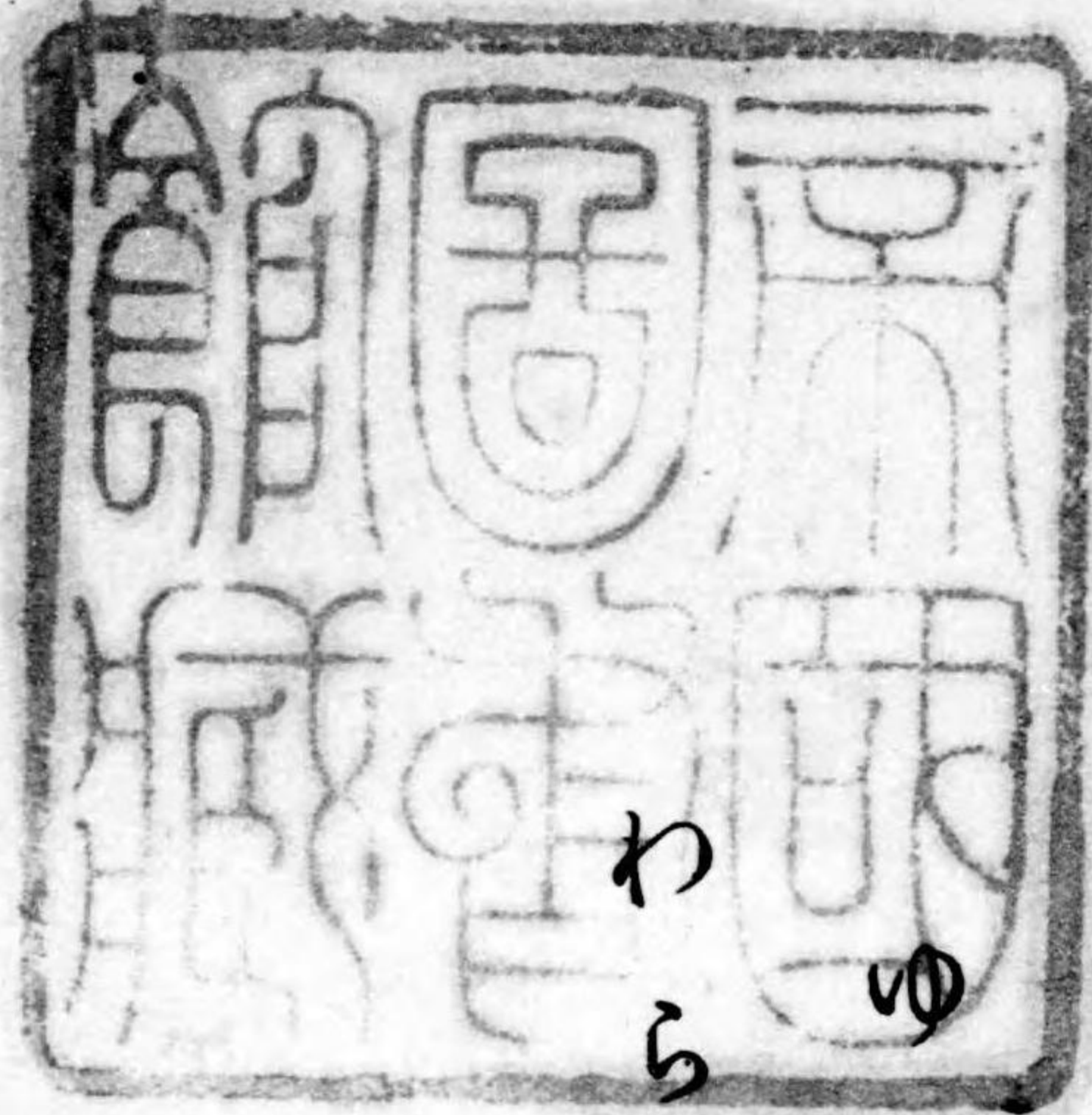
つりあひ

わらほれぬやう

怪。我のないやう

芝雷山人





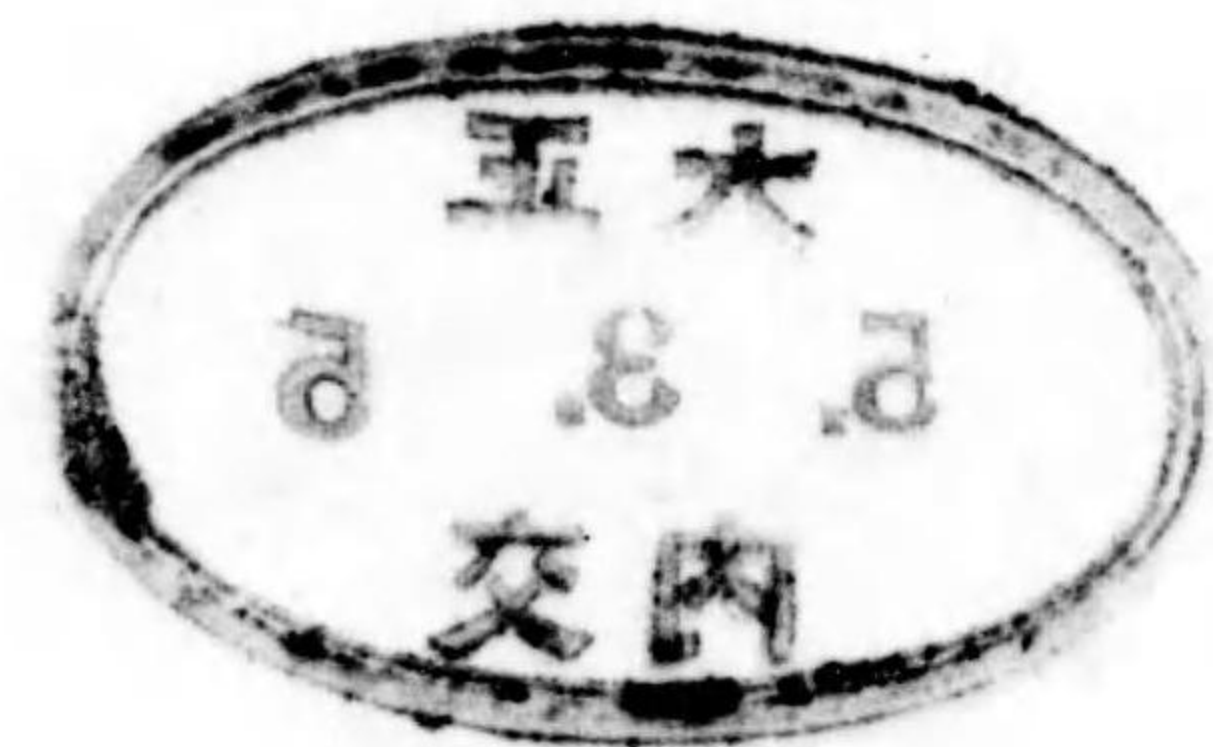
電車はらす只お互に

つりあひ

わらはれぬやう

怪我がのないやう

芝雷山人



芝雷山人著

電車百馬鹿



1 膝ひざを重かさね足あしを通つう路ろに突つ出だして居ゐる馬ば

2 杖つゑや傘かさを通つう路ろに出だして置おく馬ば鹿か

3 中央ちゆうなかに仁王にわうだ立たちして通つう路ろを妨さまたげてる

馬鹿ばか

4 足あしを通つう路ろに投なげ出だし踏ふ反そり返かへつてる馬ば

鹿か

(1)

5 急いそぎ降かり車くるま人ひとの通つう路ろを妨さまたげ愚ぐ圖ず々々し

てる馬鹿ばか

6 他ひとの足あしを踏ふんて謝あや罪まゐせさる馬鹿ばか

7 席せきを譲ゆづられて掛かもせず禮れいも言いぬ馬鹿ばか

8 他ひとよりの氣き附つけに禮れいも言いはず澄すましてる馬か

鹿か

9 席せきを譲ゆづられて禮れいも言いはずに其その人ひとを押し退ひ

(2)

けて掛ける馬鹿

10 満員に飛乗て従業員を怒罵する馬鹿

11 乗越して無理窟言つて怒る馬鹿

12 投出してある足に躓いたとて怒る馬鹿

鹿

13 途中勝手に乗換場を變更して従業員

に喰て掛る馬鹿

14 新聞が見えぬとて怒る馬鹿

15 満員に他に壓揉れしとて怒る馬鹿

16 家蓄を同乗させぬとて怒る馬鹿

17 荷物を座席に排列して平氣なる馬鹿

18 履物を高く歩み他に泥土を附けて平

氣なる馬鹿

19 濡た傘を他に寄せ掛けて平氣なる馬

鹿

20 大嚏し餘沫を他に掛けて平氣なる馬鹿

21 臭氣甚しきものを人前に出して平氣

(5)

なる馬鹿

22 前釘の外れ居るを平氣で居る馬鹿

23 痰唾を吐きては履物で拭きつゝ平氣

18 なる馬鹿

24 嫌忌すへき病氣を現し平氣で居る馬

鹿

25 股間に傘を挟み平氣で居る(婦女)馬

(6)

鹿

26 満員に悠々ご新聞を擴げ他の顔に接

觸して平氣なる馬鹿

27 満員中を降車するに他を突退る馬鹿

28 降車人を突退けて乗車する馬鹿

29 傘や杖を腕に掛け又は脇挟み他に泥

土を附けて澄ましてる馬鹿

30 大胡床をかい膝を傍人に突當て澄

してる馬鹿

31 大荷物を他に突當て澄してる馬鹿

32 發着の際に淺く腰掛け他に倒掛り笑

て澄す馬鹿

33 窓を枕に高軒して教ぬとて他に迷惑

を掛てる馬鹿

34 喧嘩口論して乗合中に迷惑を掛ける

馬鹿

35 物に見されて乗過をし狼狽して傍人

に迷惑を掛ける馬鹿

36 切符代に大札を出し乗合中に迷惑を

掛けてる馬鹿

37 子供に食物を與へて傍人に迷惑を掛

ける馬鹿

38 降車するとして三四ヶ前の停留場より

大騒ぎして他に迷惑を掛ける馬鹿

39 濡た儘を遮二無二割込んで傍人に迷

惑を掛ける馬鹿

40 大胯に構へ両肘を張て傍人の迷惑を

思ぬ馬鹿

41 斜に腰掛けて二人分を占領してる馬

鹿

42 他の伴れの真中に割込んで双方の話

に聞惚てる馬鹿

43 停車して始めて乗換たと徐々支度に

取掛る馬鹿

44 入口に頑張て中央の空間へ繰進まぬ

馬鹿

45 廣く座席を占領して他に譲らぬ馬鹿

46 釣革二本を占領して腕を張出して

馬鹿

47 人前で鼻糞を穿出して弾き散らす馬

鹿

48 居睡して傍人に靠れ掛る馬鹿

49 降車間際まで釣革を放さず他の頭に

突當てる馬鹿

50 酒氣芬々管を捲いてる馬鹿

51 尻を先に無言で無理に割込む馬鹿
52 乗換切符に愚痴を并べて進行を鈍らす馬鹿

53 群集の中で組打ちする馬鹿

54 窓に肘掛け座席を斜めに広く占領してる馬鹿

55 運轉臺に出て動かず出入を妨げてる

馬鹿

56 大荷物を提げて席を譲りさうなもの

57 人々を見廻わしてる馬鹿

58 寒い時窓を開放し衛生の講釋をしてる馬鹿

59 車内に痰を吐く馬鹿

他の前出夫婦喧嘩や他の噂さを高談

する馬鹿

60 座席もなきに知人を招き寄て互に困難してる馬鹿

61 寝転んで居る馬鹿

62 窓外に首や手を出す馬鹿

63 他の前で耳垢や雲脂を平氣で散らす馬鹿

64 互に空席を譲り合て他にも掛けさせぬ馬鹿

65 他の前で大聲大欠伸する馬鹿

66 飛乗りする馬鹿

67 進行中運轉手に話掛ける馬鹿

68 放歌喧噪する馬鹿

69 暑い時に窓を開けぬ馬鹿

70 荷物ある人や老人子供を前に眺めて

安座してる馬鹿

71 入口を脊にして靠れ掛り他の顔のみ

眺めてる馬鹿

72 強ひて婦女子に密接して腰掛ける馬

鹿

73 飛降りする馬鹿

74 道聞いて碌々返事もせぬ馬鹿

75 群集中で化粧して居る馬鹿

76 思出し笑ひして居る馬鹿

77 他を指示し己れの仲間に耳語し合ふ

馬鹿

78 聞に堪へざる事を大得意で話し傍人

の笑ふに嬉しがる馬鹿

79 車内しゃないで喫煙くげんする馬鹿ばか

80 子供こどもに廣ひろく座席ざせきを與あたへて少すこしも讓ゆづらぬ馬鹿ばか

81 腰掛こしかけ臺たいに据たり込こんで辨當べんたうをつかふ馬鹿ばか

鹿か

82 釣革つりかわ持もたずによろ／＼して他ひたに突當つきた

り笑わらて居ゐる馬鹿ばか

83 空覺うらおぼを尤もつこもらしく建物たてものや舊跡かうせきを問違まちが

て話はなしてる馬鹿ばか

84 満座まんざの中なかで放屁はふひする馬鹿ばか

85 冬季とうき割引わりひき切符きつぷを以もつて普通車ふつうしゃに乗のせよ

とて屁理窟へりくつを並ならべる馬鹿ばか

86 満員まんゐん札ふだあるに強しひて踏段ふみだんに立たつて動ぬ馬鹿ばか

鹿か

87 規則きそくに抵觸そむくして拒絶こころせられても強情がうじやう
に乗車じやうしやする馬鹿ばか

88 遺失物おとしもの忘れ物わす物を笑わらて教ぬ馬鹿ばか

89 太股ふとももを現あらはして居ゐる馬鹿ばか

90 他人たにんの乗換路のりかへみちの遠近えんきんを盛さかんに口論こうろんし

てる馬鹿ばか

91 小用しゅう泣なく子を呶鳴なう附つて同情者どうじやうに迄まで

無愛想ぶあいさうなる馬鹿ばか

92 廣告くわうこくを朗讀たかよみして得意然いよくと大たはに批評ひひやうし

てる馬鹿ばか

93 子供こどもを掛かけさせぬとて怫々ぶつ小言こごいふ

馬鹿ばか

94 従業員じゆうげふりん相手あいてに争論そうろんし乗合のりあひに迄まで抗議かぎす

る馬鹿ばか

95 群集を押割け自分のみ降車（又車）し

て子供を構ぬ馬鹿

96 乗換切符を降車間際に渡し雨雪中に

待たせる車掌の馬鹿

97 發着の時に車体を激動させ乗客を將

碁倒にする運轉手の馬鹿

98 満員立錐の餘地なきに無限に乗せる

車掌の馬鹿

99 急行せしめ得ずして人車よりも遅く

らす運轉手の馬鹿

100 車内の掃除不行届にして塵埃舞上る

に平氣なる従業員の馬鹿

電車百馬鹿 終

拜啓御内示被下候電車百馬鹿は御添
書中に戯著御笑ひ被下度と拜見仕候と
ころ車内の實事隨分癢に障り候こと多
く殊に花時その外祝祭日等休日の夕刻
などは車臺少なく一層の混雜を來たし
酩酊者も不少候ことゝて老人小兒等の
爲めには最も危険に存候
左れば仲々以て笑ひ事にはこれなく貴

著によりて御互に讓合ひ候やうに致度
ものに御座候従つてこの互讓の心を獨
り車内に於てのみにせず諸種の集會稠
人廣座の中に活用いたし候ことを得ば
蓋し其利益不少ことに可有之存候電氣
局にて毎度車掌用語と題し募集いたし
候は其揭示場揭示期間より推測致候て
も言外に互讓希望の深意包含致居こと

ご存候俗に他人の態を見て吾か態を直
せと申こころ有之候間貴著の御希望も追
々實現いたし可申近來有益の御著述と
確信罷在候

先は拜受御禮旁愚見申陳度如斯御座候

大正五の如月

草々不備

梅深きところ 訥拜

芝雷兄 座下



確實ナル金儲ケノ器械生ル

(三圓ノ元デ日ニ 壹圓宛儲カル)



素人用活字印刷器械 (郵券二錢封入御申込 次第詳細説明書送ル)

◎名刺、ハガキ、受取紙、小雑誌、ペーパー、傳票、封筒等何ソデモ素人ニテ手易ク印刷ガ出來ル。此雑誌位ノモノハ最モ手頃ナリ

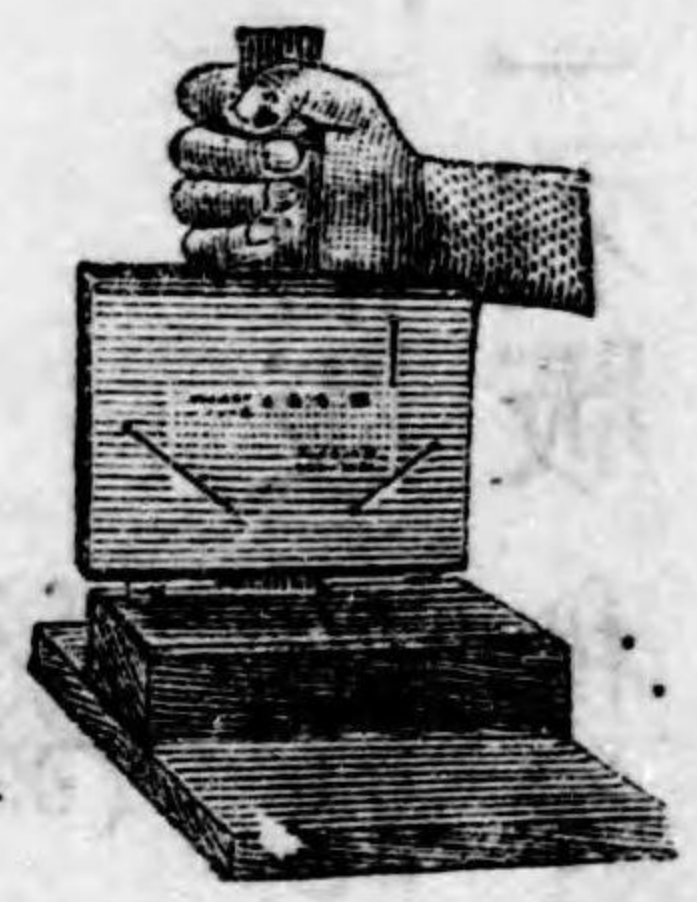
◎名刺ハ一日拾組位ハ樂ニ印刷ガ出來ルカラ廉價工賃一組(百枚)拾錢トシテモ手間丈ケ一日壹圓位ノ收入ハ容易ナリ

◎御入用ノ活字(弊店ニテ製造ス)ハ御申越次第特ニ割引直段ヲ以テ直ニ引替小包ニテ御送附ス

一木製器械及附屬品(インキ、込物、ルーラ等)共 壹組 金 四圓也

一鐵製器械(附屬品共) 壹組 金五圓八十錢

一名刺専用器械(附屬品共) 壹組 金 參圓也



使用法ハ御來店アレバ實地試験シテ御覽ニ供ス

定價

(但送料ハ別ニ申受ク)

東京市京橋區南鍛冶町二十二番地

製作發賣元

會社

開正舍

印刷製本

機械店

電話京橋二、二四三番
振替口座東京一、九二二番

印刷部營業科目

- 一 活版 雜誌類、事務用印刷物一式、廣告等
- 一 石版 株券、ペーパー、商品切手、看版ビラ、手紙、名刺等
- 一 和洋諸帳簿、手帳、和洋製本、カレンダー、荷札等其他印刷物一式
- 一 寫真コロタイプ印刷、寫真銅版等

● 弊店ノ特色

- 一、弊店ハ會社、商店ノ事務用印刷物ヲ最モ特色トス
- 二、雜誌出版物ハ期日ヲ急ガルモノニ就テハ大小共殆ド無競争ノ低廉價ヲ以テ御用命ニ應ズル特別ノ設備アリ、一度御試命アリタシ
- 三、目下歐洲戰亂ノ影響ニテ洋紙暴騰ノ爲印刷代非常ニ騰貴ノ際ナレ共弊店在庫品ニテ御用命アレバ最モ低廉ナル印刷物ヲ得ラルベシ

東京市京橋區南鍛冶町二十二番地

會社

開正舍印刷所

電話京橋二、二四三番

大正五年二月廿九日印刷
大正五年三月五日發行

定價金 七錢

著者 芝 雷 山 人

發行兼印刷者 木 村 恂

東京市京橋區南鍛冶町二十二番地

印刷所 開正舍印刷所

電話東京橋三二四三番
接替口座東京一一九二二番

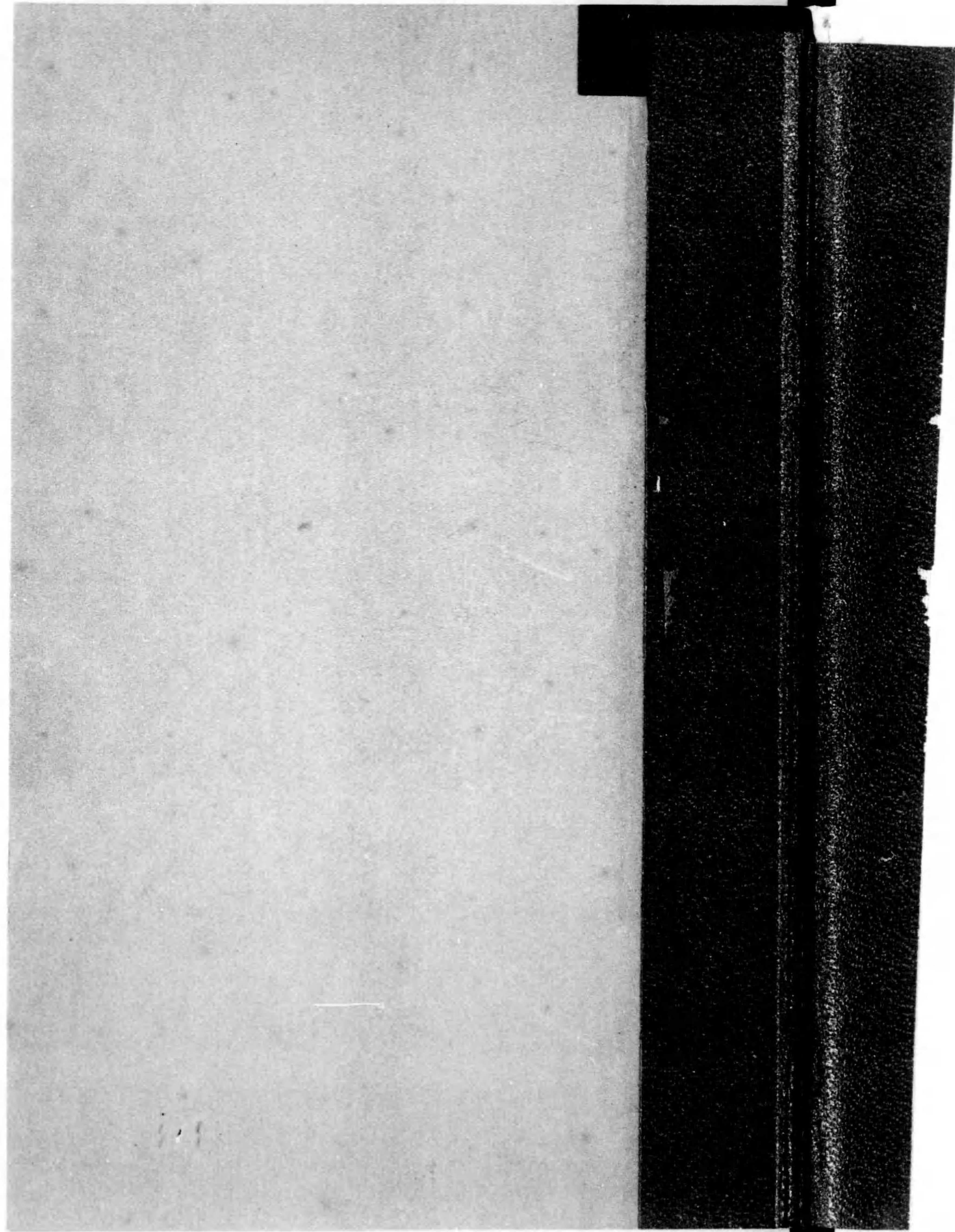
發賣所

合資會社 開正舍

賣捌所

全國各書林

不許
複製



終

00

19